

2013年9月7日から9月14日までGNCモンゴルエコツアーを実施致しました。  
参加された方の感想文をご紹介します。

JICA青年海外協力隊

平成 23 年度 3 次隊（環境教育） 木下 聡

### 2013 年エコツアー参加レポート

今回様々な縁と、私からの希望もあり、9月7日～14日のエコツアーのうち、8日、9日のセレンゲ県植林地視察と11日のエコ教室に参加、13日には私の活動フィールドであるゴミ処分場の案内をさせて頂きました。

セレンゲの植林地視察では最初に昨年植えた5～10cmほどの頼りない小さな苗木を見た後、2004年に植え見事に森となったアカマツを見ました。先に昨年植えたかよわい姿を見た後だったので、私たちの背丈を越えて整然と並ぶアカマツを見た時には長年にわたる活動の結実に対して大きな感動を覚えました。翌日の幼稚園では可愛い子供たちの発表を見て、GNCに賛同して協力してくれているこの幼稚園の先生方の真摯な取り組みに感銘を受けました。

11日のエコ教室は日本の事例紹介だけではなく、それを見てモンゴルでは何ができるかを学生たちに問いかけ、自分たちで考えて発表させるワークショップ方式がうまくいき、活発に意見が出ていて勉強になりました。また通訳だけでなく自らもプレゼンを行った留学生の活躍も印象的で、様々な人たちが集まり協力している姿にGNCの魅力も感じられました。

13日は依頼を受けて、ウランバートル市のゴミ処分場を案内しました。現在の処分場だけでなく、2009年に埋め立て終えた旧処分場の植林現場を見ることができたことで、大きな収穫がありました。案内してくれた職員が依然緑化関連の部署にいたため、今後この場所での植林にも協力ができるのではないかという話が出たことです。

一連のツアーに参加し、GNCが取り組む「人づくり」と「森づくり」、また私が現在青年海外協力隊として行っている「環境教育」が根底でつながっていることを感じました。それは成果はすぐに見えないけれど、継続し、積み重ねていけば将来確実に成果が表れてくるということです。木も人もすぐには一人前にはなりません、長い時間をかけ少しずつ成長していきます。環境教育もすぐには成果が現れません。1回1回の授業で生徒達がいい反応をしてくれたとしても、それによって街中のゴミが一扫されたり、環境破壊がピタリと止まるわけではありません。自然環境を大切にする人たちが育ち、増えることでようやく変化が現れます。な解決策がないからこそ、地道で長期的視野に立ち、継続することが重要である点でそれらは共通しています。9年間をかけて森を形成し始めた植林地を見てそのことを改めて実感させられました。1年半以上モンゴルで活動していてモンゴルの人たち

には長期的プランを立て、一步一步作業することを不得手とするきらいがあると、感じる部分がありますが、「自然環境」、そして「教育」の分野には5年後、10年後の成長した姿をイメージすることが不可欠です。GNCの「森づくり」、「人づくり」の活動がそうした大切さをモンゴルの人たちにも根付かせられることを切望して止みません。もちろん私も協力隊の隊員として微力ながらも貢献できればと考えています。

今回ツアーに同行し、GNCの活動の理念やこれまでの成果を垣間見ることができ、スタッフの方々の素敵なお人柄にも触れることができるとても有意義な経験となりました。これを機に今後も引き続きGNCの活動に協力していきたいと思えます。

株式会社アールキューブ  
松永 康利

NGO「GNC Japan」の方達に同行させて頂き、植林活動のいろはを9月7日から4泊5日のエコスタディ・ツアーという形で教えて貰った。代表の宮木いっぺいさんの言葉が印象深い。

「その貢献でそこに住む人達が笑顔になるのか？これが基本なんです。」

以前は植林ボランティア団体も多数あったが今では片手で数えるほどだという。

その消えていった団体の殆どが「とにかく木を植える」だけ。枯れようが山を荒らすことになろうが、とにかく植林数を公表して満足気だったという。モンゴル植林活動で最古参の類に入るGNCはそれらを横目に堅実な土地調査、行政との折衝、良質な苗の確保に力を注いだ。

その成果をセレンゲ県ロシア国境近くの山中で見ることが出来た。9年かけて育った高さ3m近くの赤松林を。松ぼっくりがやっと実ったのはこの1、2年。その9年間で森林火災や家畜による被害は何度もあったという。しかも火災はロシア側か...らの放火だという。伐採が許されない場所であっても山火事などで木の表皮が焦げれば切り倒しても良いという決まりのため悪質な業者が火を放つ。これには心底驚いた。

併せて驚いた事をもう一つ。こんな国境付近の山中でも携帯電話が楽々通じるのだ。

ゴミの放置、不衛生なトイレ、貧困に喘ぐ子供、そんな国の山中で。

近代国家が踏んだであろう文明の過程をすっ飛ばしていきなり「スマホ」なのだ。基本的なライフラインは整備が追いつかず国民の平均寿命も短い。

その歪みのもと「教育の欠如」ではとGNCの宮木いっぺい代表が植林活動を通して語ってくれた。

「木を植えるといってもいつまでも日本のボランティアが続けるのはおかしい。モンゴルの人達の手による植林活動が目標。GNC はただ木を植えるだけではなく “ なぜ木を植えるのか ” を啓蒙していきたい。その教育があってこそ真の植林活動だと思います。」

その教育の一端をセレンゲ県の第7幼稚園で垣間見た。

GNC が幼児教育用に配布している絵本「アカマツの赤ちゃんの夢」を寸劇にして園児達が披露してくれたのである。木を育てることの大切さを3～5歳までの子供たちが体いっばいで表現。そこに「みんなが笑顔になる貢献」の着実な広がりを実感した。

僕が代表を務める（株）アールキューブはGNCを通じてモンゴル植林活動に取り組んでいるが、今回の旅でさらにその思いを強くした。他にもゲルでのおもてなし、孤児院表敬訪問、草原での乗馬（ちょっと走った）、満天の星観察、農場視察、パリダカなみの悪路など語れば尽きない。

結びにGNCのいっぺいさん・あきこさん・ようこさん・あんりさん・ツォゴーさん・オチルさん。

素晴らしい出会いに妻共々感謝！それではまたモンゴルで！

株式会社アールキューブ  
松永 美湖

この度、9月7日から11日までGNCモンゴルエコツアーに同行させていただきました。始めから終わりまで、GNCの皆様へのモンゴルに対する情熱を感じずにはいられない感動的なツアーとなりました。

8日にはセレンゲ県の植林地を視察し、山火事が残した大きな傷跡を目の当たりにしました。無残にも横たわる焼け焦げた木々。

大地に根を張り、そこにそびえていようとも、伐採される運命にある焼けてしまった赤松。今も抱える様々な問題と継続的な支援の必要性を知りました。

しかし、足元を見れば小指ほどの小さな赤松の苗木が、殺伐とした大地に根付いているではありませんか。それは昨年、GNCの方々が生かした苗木だとか。

広大な土地に一本一本手作業による植林作業は、容易なことではないと思います。

その後、2004年にGNCが初めて植えた植林地にも視察をさせていただきました。

小指ほどの小さな苗木が9年と言う歳月を経て、人間の背丈をとうに超え、大きく成長している姿には非常に感動いたしました。

また、昨年には9歳にして初めて松ぼっくりをつけたと言うお話を聞き、一人前に育て

るまで、地道に手を掛け見守り続けた努力が実を結んだと更に感動いたしました。  
翌日にはダリアやコスモスの美しい花が咲く第七幼稚園を訪問させていただきました。  
どの国においても決して変わる事のない、子供達の天使の笑顔に癒されたひと時。  
その後はホールにおいて GNC の矢野さんが手がけた絵本を脚本にした劇を拝見しました。  
子供達が緊張した様子で、一生懸命に演じていた姿は今も忘れることは出来ません。  
素晴らしい歌と踊りで幕を閉じた劇。感動と同時に、「GNC の植林活動は、  
モンゴルに住むその人たちが自身が環境保全に対する意識を高める為の一つの活動であり、  
全てが『教育』に繋がっている」と言うことを実感いたしました。

どんなにか弱い苗木も、育てる人がいれば、年月を経て立派な大樹へと育っていく。  
「人と人との共存」「自然と人との共存」「過去・現在・未来の共存」を目的とされている  
GNC は、非常に大きな役割を担われていると思いました。  
4日間と言う短い期間ではありましたが、代表の宮木さんを初めスタッフの方々と様々な問  
題を熱く語り合ったことも、今回のエコツアーの良い思い出となっております。  
今回のツアーに参加させていただき、会社として社会的使命をどう果たしていくのか。  
色々な事を考えさせられました。  
モンゴルの現状を知った今、モンゴルの未来の為、GNC の皆様の活動を今後も応援させて  
いただきたいと思います。  
この度は大変に有難うございました！

2013 年度在日モンゴル留学生会・会長  
東京工業大学理学部  
情報科学科 4 年 バトチュナグ

今年初めて GNC のモンゴルでの活動に参加することができました。9月の夏休みにちょう  
どモンゴルに帰っている間に参加できて嬉しく思っています。GNC の皆様にありがとうご  
ざいました。

私が GNC のモンゴルエコツアーの全てのイベントには行けませんでした。ウランバー  
タル市での1日の活動に参加しました。午前中はモンコール国立大学エコロシエ教育セン  
ターを訪問して、元気な生徒たちに対してエコ教室を開きました。午後には第 42 幼稚園に  
行きまして、園児たちの素晴らしい演奏を楽しむことが出来ました。本当に忘れられない  
一日を過ごしたと思います。

活動の一部であるエコ教室ではモンゴル人の高校生や中学生に、以前6月に訪問した板  
橋区立エコポリスセンターについての話をしました。ビル自体もエコであるエコポリスセ  
ンターを見て、ウランバータル市にも似たような施設があつて欲しいなと生徒たちが話し

合っていました。また、みんなで環境教育について議論しました。最初に何を話せば良いかを分からなかった生徒たちが議論してくるとどんどん新しいアイデアを発言していました、ずいぶん盛り上がりました。小さい頃どのような環境教育を受けていましたかという話をしている間に私も自分の小学生の時を思い出して、本当に楽しかったです。

午後に第 42 幼稚園にお邪魔しましたがおそらく、弟の幼稚園卒業以来のとても久しぶりの幼稚園の訪問だと思います。日本からの来訪者たちの為に園児たちがまじめに練習したお遊戯を発表しました。自分では覚えていませんが、私は園児の時に詩を朗読したことがあること両親から聞いています。でも、第 42 幼稚園の園児たちほど上手ではなかったでしょう：)。

第 42 幼稚園と GNC を繋いでいるのがやはり園長だと思います。園長が以前日本で研修生として留学したということを知って感動しました。園長が留学して色々なことを習って、モンゴルで園児たちのために働いているでしょう。私も勉強を頑張って将来、後輩たちや子供達の為に貢献できる人間になりたいと思っております。

以上、感想文を読んで頂きありがとうございました。

東京大学工学部 3年

バータルフー ウンダルマー

GNC Japan のモンゴルエコツアーによって、毎回貴重な経験をしています。今回はエコロジー教育センターにて行われたエコ教室と、学校や幼稚園訪問に参加いたしました。

エコ教室では、板橋区のエコポリスセンターに訪問したとき経験したことや感想を生徒たちに紹介しました。自然や環境に興味ぶかくて、熱心に議論する生徒たちをみて本当に嬉しかったです。将来にモンゴル国を背負って行く人々がよく育っていますねと思いました。

さらに、母校により優れた新しい教育システムを導入しようとする第 18 学校の先生方と、育児教育プログラムにエコロジー教育を導入するために行動をしている第 42 幼稚園の先生方をみて本当に感動しました。このことからモンゴルでは、教育システムのあらゆる段階で、環境教育を大事にする志向が広がっていることが見えました。

これからも GNC の活動にできるだけ参加して、少しでも役に立てたらと思います。GNC の皆さんいつも有難うございます。